



地域連携室便り

愛媛県立中央病院
地域医療連携室

No.36 (2023年5月)

直通TEL 089-987-6270 (前方連携)
089-947-1165 (後方連携)
FAX 089-987-6271

新緑の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度 地域連携室便り No.36 5月 を刊行いたしました。気軽に読んでいただけるようにと
考えておりますが、皆様方からのご意見をいただければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひ
お知らせください。この機会にぜひメール登録をよろしく願いいたします。

今回の内容

- ① 皆様、よろしくお祈いします 箱岡由香
- ② 新院長ご挨拶 中西徳彦
- ③ 診療科紹介（麻酔科） 中西和雄
- ④ 第125回医療連携懇話会「循環器診療 ～聴診器診断から小児カテーテル治療まで～」を終えて . . . 石戸谷浩
- ⑤ コラム:医療従事者のつづやき 佐川庸
- ⑥ 地域医療連携室からのお知らせ～登録お申し込み方法について～

皆様、よろしくお祈いします

地域医療連携室 看護長 箱岡 由香

この度、地域医療連携室の担当となりました箱岡由香と申します。職務経験として、南宇和病院では地域包括ケア病棟の運営や、中央病院では外来看護に携わる事があり、その経験を今後は活かしていきたいと思っています。

そこでは、住み慣れた地域で患者さんやご家族が安心して過ごせるために地域の医療機関や介護・福祉に携わる方々と“顔のみえる関係づくり”が大切であることを学びました。

また、退院支援・調整をする過程では、患者さんの思いが取り残されないように心掛けてきました。今は、地域医療連携室の一員として役割や業務を覚えることで精一杯ではありますが、切れ目のない医療・介護・福祉サービスが提供できる信頼される地域医療連携室をつくってまいります。

これからも何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



① 新院長ご挨拶

院長 中西 徳彦



この度、菅前院長の後任として院長を拝命いたしました中西徳彦（なかにしのりひこ）と申します。就任に際しまして、あらためてご挨拶申し上げます。

私は、平成3年4月に愛媛県立中央病院に入職しました。地域の先生方にお世話になって32年になります。赴任した当時はまだ大学卒業後6年目で、呼吸器内科に配属となりましたが、4人のグループの4番目でした。若いころは患者さんの病気、診療のことだけを考えていればよかったのですが、

10年ほど前に呼吸器内科主任部長になってから科の方針を打ち出したり業績をまとめたり、という仕事が増えました。6年前にがん治療センター長を拝命してからは、当院の「がん診療拠点病院」としての役割を果たすべくマネジメントをするようになりました。ちょうど免疫チェックポイント阻害薬（ICI）が世に出てきて適応が拡大し、驚異的な効果とその裏返して免疫関連有害事象といわれる副作用がみられるようになった時期でした。それに速やかに対応できるように様々な診療科や薬剤部に協力いただき、チームICIを編成しました。また、がんゲノム医療の始まる時期となり、先進施設である四国がんセンターに見学に行ったり講演に来ていただいたりして、当院も「がんゲノム医療連携病院」の指定をいただきました。各診療科と病理検査部の協力のもとがんゲノムチームを編成しました。いずれも順調に実績を積み上げてきています。2年前からは副院長、クオリティマネジメント室長として、院内改善活動などにかかわってきました。その中では病院機能評価を意識した院内ケアプロセス監査を継続しています。

また2018年度から実質開始となった新・内科専門医制度では内科専門医プログラム統括責任者を務めました。おかげ様を持ちまして、1期生から数人ずつではありますが、無事に新内科専門医を取得できており、さらに今年度は新制度でのサブスペシャリティの専門医が取得できる見込みです。こういった新制度の研修では、当院のみでなく連携病院での研修が必須とされております。当院のみならず、連携病院の先生方にも協力をお願いしました。ご指導ありがとうございました。この制度は今後もずっと続くと思いますので、引き続きご指導をよろしくお願いいたします。また、一般開業の先生方から紹介していただく1例1例が彼らの貴重な経験となり、財産となっています。今後ともよろしくお願いいたします。また、当院での専門医研修希望の先生がおられましたら、ぜひ、ご一報いただければと存じます。

ここ3年間、新型コロナウイルス感染症に医療現場も一般社会も苦しめられてきました。まだまだコロナとの闘いは続きそうですが、ウィズコロナということで診療体制を整えていくことが私のミッションだと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

②診療科紹介（麻酔科）

麻酔科 主任部長 中西 和雄

愛媛県立中央病院の麻酔科は、麻酔診療を中心に、集中治療とペインクリニックの3つの領域の診療を常勤医15名（麻酔科専門医12名）と非常勤医7名で行っています。

麻酔においては、中央手術室15室、産科手術室1室を中心に、年間約4800例の麻酔管理を行っています。新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けて、良性疾患を中心に麻酔件数は例年に比べて減少していますが、必要度の高い手術は遅滞なく行っています。麻酔管理は、一般的な外科手術に加えて、心臓血管外科、循環器内科、呼吸器外科、脳神経外科、産科手術、小児の手術や検査など幅広く対応しています。また、当院はドクターヘリポートを備えた高度救命救急センターおよび総合周産期母子医療センターを併設した超急性期病院であるため、重症多発外傷、頭蓋内出血、心臓血管緊急症、腹部緊急症、産科救急症例が数多く搬送され、これら重症の緊急症例の麻酔を行っています。2022年は麻酔管理症例4750例のうち緊急麻酔は1068例（22.5%）におよび、超緊急の帝王切開や大動脈瘤破裂などの麻酔にも対応しています。

当院の手術室には、ハイブリッド手術室と感染症対応手術室があり、手術支援ロボットも2台配置されています。また、充実した手術映像システムにより全例の手術映像が保管でき、電子麻酔記録システムにより麻酔チャートとともに詳細なバイタルデータの電子的な保管が可能です。

ハイブリッド手術室は血管造影用の透視装置を備えた手術室で、経カテーテル的大動脈弁留置術や大動脈ステント留置術などの心臓・大血管手術をはじめ、脳神経外科、整形外科、婦人科の透視下の処置を必要とする手術などが行われています。感染症対応手術室は、手術室内部を陰圧換気にすることができ、COVID-19や新型インフルエンザなどに感染した症例の手術を、感染防御を図りながら行うことができます。現在までにCOVID-19に罹患した20症例の麻酔をこの手術室で行いました。

また、当院の麻酔科では、術前診察を当院独自の部署である入院サポートセンターと連携して行い、カルテ診察、外来診察、担当医による前日の診察と3回評価することで、術前の早い時期から周術期の問題点を検討し、術前休薬や追加検査などの対策を講じ、安全な周術期管理に努めています。

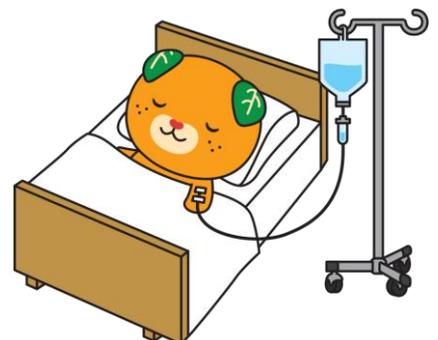
術後は、創部痛や安静に伴う痛み、嘔気嘔吐の緩和を積極的に図り、早期の離床ができることを目標にしています。痛みに対しては、通常の鎮痛薬に加えて、硬膜外麻酔、各種の神経ブロック（体幹部神経ブロック、傍脊椎ブロック、四肢の神経ブロックなど）、麻薬の持続投与による自己調節静脈内鎮痛法などの複数の鎮痛法を組み合わせることで緩和に努めています。

また、術後の嘔気嘔吐に対して2022年から5-HT₃受容体拮抗型制吐薬の投与が適応となり、嘔気嘔吐の発症頻度は大幅に減少し、術後の早期離床に貢献しています。

集中治療においては、集中治療センターで2名の集中治療専門医を中心に、手術後の症例や病院内で加療中に重症化した症例を対象に治療を行っています。主に行われている集中治療は人工呼吸や血液浄化、薬物的な循環補助ですが、体外循環補助など高度な集中治療にも対応でき、各診療科の先生方の診療のサポートをしています。

ペインクリニックにおいては、院内紹介症例を対象として週3日の外来診療を行い、年間で約70名の新患、延べにして約1900名の診療を行っています。慢性の頭痛、三叉神経痛、帯状疱疹、腰下肢痛、各種神経痛や癌性疼痛等が原因で起こる痛みに対して、神経ブロックや漢方薬等を用いた薬物療法などによる緩和、四肢の血流障害やしびれ等の治療、ボツリヌス毒素を用いた顔面痙攣や斜頸、脳梗塞等による四肢の痙性の治療も行っています。現在は、トリガーポイント注射、電気針、イオントフォレーシス、近赤外線治療、硬膜外ブロック、星状神経節ブロック、三叉神経ブロックのほか超音波や透視下の神経ブロック（脊髄神経根ブロック、椎間関節ブロックなど）、パルス高周波熱凝固法を用いた治療を行っています。

愛媛県の急性期病院の中核施設の麻酔科として、麻酔はもとより、集中治療、ペインクリニックにおいても、手術を受ける方、手術後や重症化で集中治療が必要な方、慢性の痛みで苦勞されている方やそのご家族に心身ともに寄り添う治療を心がけてまいります。さらに、常勤の麻酔科専門医12名（麻酔科指導医8名、集中治療専門医2名、ペインクリニック専門医1名、日本区域麻酔学会指導医2名）を中心に、専攻医3名のスキルアップを図り、愛媛県の麻酔科診療の充実に努めてまいります。



③ 第125回医療連携懇話会

「循環器診療～聴診器診断から小児カテーテル治療まで～」を終えて

循環器病センター長 石戸谷 浩

2023年4月12日に「循環器診療～聴診器診断から小児カテーテル治療まで～」のテーマで医療連携懇話会を開催いたしました。現地およびwebのハイブリッド形式で多数の参加をいただきました。医師のみならず、薬剤師さんや理学療法士さん等他職種の方にご参加いただき誠にありがとうございました。今回は循環器診療の基本である聴診に関して小児循環器専門医、成人循環器専門医の両立場から説明いただき、加えて最新の成人先天性心疾患に対するカテーテル治療に関してのお話をいただきました。

まずは小児医療センター長の山本英一先生から「外来や乳幼児健診、心臓検診でみつかる心疾患」に関して講演していただきました。心疾患は心雑音で発見されることは多いが、心雑音の出現時期である程度疾患が予測できるということを説明していただきました。出生直後から聴取できる場合は狭窄に伴うものが多く、出生後ある程度時間が経過（生後肺血管抵抗が下がるには時間がかかる）してから聴取され始める場合は左右短絡疾患が多いことを教えていただきました。そして心雑音が聴取できない場合はむしろ重症心不全であることが多いこともあるとのことでした。また同時に大切なこととして生理的な末梢性肺動脈狭窄も少なからず経験することも当院での外来患者さんを例に教えていただきました。また、心疾患を発見するためにいかに学校検診が大切かを実際の症例を提示しながらわかりやすく説明いただきました。小児は年齢により検査結果の判断が異なることも多い為、困ったらいつでも相談いただくようにとのことでした。

次いで副院長・循環器内科の岡山英樹先生から「令和のシン・心臓聴診術」に関して講演いただきました。まず心音の中でⅢ音（心室の拡張早期に心房から心室に血液が流入する振動により生ずる低調音：心室の容量負荷や心不全で認めます）やⅣ音（拡張終期に心房が強く収縮し、心室への流入が増加し心筋が進展して生ずる低調音：心室コンプライアンスが低下したときに聞かれます）の診断能は非循環器専門医と比較して突出して専門医が優れているわけではないことを説明してもらいました。また、AIやスマートフォン等のデジタル技術を用いれば特徴的な疾患では循環器専門医と同等の診断率が得られることも提示いただきました。さらに近年、ポケットエコーの性能が上がりこれも弁膜症診断の有用なツールであることを教えていただきました。聴診器に加えこれらツールすべてを有効に活用することが令和の新しい心臓聴診術（診断術）になると示していただきました。さらにハートチームによる径カテーテル的大動脈弁留置術500例の報告もされました。

最後に小児科部長の森谷友造先生から「広がるカテーテル治療 ～こどもから大人まで～」に関して講演いただきました。先天性心疾患の外科手術成績向上に伴い、多くの方が成人できる様になってきた（愛媛県を例にすると毎年8000余りの出生数がありその1%に当たる80人が先天性心疾患児として出生しその多くが成人する）。今後は成人先天性心疾患に出会う機会が増加するためこの疾患に対する理解を皆が深める大切さを強調されていました。先天性心疾患は手術時に使用した人工物、とりわけ弁の劣化が問題となってくることをファロー四徴症を例にとり説明していただきました。弁が劣化すると狭窄や逆流が原因で心不全を発症します。これまでは再手術（再開胸）しか治療方法がありませんでした。しかし2023年3月から低侵襲でより多くの患者さんに治療を提供できるカテーテルによる肺動脈弁留置術が可能となったことを教えていただきました。

今後も循環器疾患に関して、皆様の興味ある内容を連携懇話会のテーマに取り上げていこうと考えていますので、今後ご参加のほど、よろしく申し上げます。また取り上げてほしいテーマがあればご連絡いただければ幸いです。



⑤「医療従事者の矜持 その1」 副院長 佐川 庸

医師、看護師は人気の職業?

医療従事者の人気はどうでしょう?企業による新小学1年生のアンケートでは、女の子5位が看護師(前年7位)、7位が医師(前年4位)、男の子9位が医師(前年8位)。また、別の調査において高校生女子では看護師3位、医師10位、男子では医師は6位という結果です。おっと、忘れてはいけませんね、薬剤師も女子の部7位でした。医師の働き方改革推進や薬剤師・看護師業務の多様化の影響が注目される中、(定員は変わらなくても)やりがい度の向上を目指しながら、もっと人気のある職業であってほしいと思います。



⑥地域医療連携室からのお知らせ

今後各種ご案内やお知らせ(医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど)はメール配信を推奨させていただきますと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。



ご意見
ご希望

<件名>メール登録(医療機関名) <本文>・医療機関住所、電話番号

E-Mail: c-renkei@eph.pref.ehime.jp

メールのご登録で...

医療連携懇話会の
動画配信が半年間
ご覧いただけます!



動画配信
3つの
ポイント!



①
好きな
時間に



②
繰返し
再生!



③
3密
回避



※ 懇話会動画視聴のみご希望の方もご登録できます。ぜひお申し込みください。

お問い合わせ

愛媛県立中央病院 地域医療連携室 <担当>箱岡・三好

TEL: 089-947-1111(代) FAX: 089-987-6271 E-mail: c-renkei@eph.pref.ehime.jp

次回の医療連携懇話会のお知らせ

第127回医療連携懇話会

「県立中央病院をまるごとご紹介します」

日時 令和5年6月14日(水)

講演/19:00~20:30

意見交換会/20:30~21:30

場所 ANAクラウンプラザホテル ダイヤモンドボールルーム
(愛媛県松山市一番町3丁目2-1)

座長 地域医療連携室長 二宮 朋之

内容 県立中央病院29診療科のご紹介

詳細 今回は医療機関宛に後日郵送でご案内いたします。



あさくらネット

地域医療連携ネットワークサービス あさくらネット

<現在閲覧できる項目>

閲覧
無料

・処方・注射・検体検査・病名・退院時サマリー
・画像(放射線、エコー、生理検査) (4月1日以降の情報)

・循環器動画・放射線画像診断レポート

(2021年11月1日以降の情報) (2022年3月1日以降の情報)

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

お申込・詳細はコチラから Click!

地域連携室便り

次回6月号(No.37)は6月中旬頃刊行の予定です。お楽しみに!

メール登録のご案内

地域医療連携室では各種ご案内やお知らせのメール配信を推奨させていただいております。

登録していただくと…

限定公開！
医療連携懇話会動画を
ご覧いただけます！



さらに

医療連携懇話会のご案内、
地域連携室便りの更新が届きます！



ホームページのタイムリーな
更新情報等もお知らせ予定です！



動画視聴のみ希望される医療機関関係者の方のご登録も受け付けております

【お申し込み方法】

①メールからのお申し込み

申し込み先メールアドレスへ、以下を記載し送信してください。

<件名> メール登録（医療機関名）

<本文> 医療機関住所・電話番号

※動画視聴のみの希望の場合は「動画のみ」と記載をお願いします。

申し込み先メールアドレス : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

②この用紙でのお申し込み

以下にご記入をお願いいたします。

<医療機関名> _____

<医療機関住所> _____

<電話番号> _____

※動画視聴のみ希望の場合はチェックをお願いします。 動画のみ希望

<メールアドレス>

登録するメールアドレスのご記入、またはチェックをお願いします。

_____ @ _____

今回の医療連携懇話会に申し込んだメールアドレスを登録します。